

## 神奈川県金融経済概況（2014年4月）

### I. 概況

神奈川県の景気は、消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は緩やかに増加している。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。個人消費は、消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。この間、住宅投資と公共投資は減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加傾向にある。

### II. 実体経済

(1) 生産： 緩やかに増加している。

- ・ 輸送機械は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などから、減少している。
- ・ 素材関連は、建材向け素材を中心に、緩やかに増加している。
- ・ 電気機械は、情報通信機械や重電関連が堅調に推移しており、全体としてみれば持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置や工作機械を中心に、緩やかに増加している。

(2) 輸出： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 一部地域からの需要の持ち直しに一服感がみられており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 3月短観における13年度の設備投資の状況をみると、収益環境の改善などを受け、全産業ベースでは前年度比小幅増加で着地する見込み。14年度上期をみると、前年度比大幅な増加計画となっている。内容をみると、製造業では維持・更新投資に加え、一部で新製品開発や能力増強を目的とした投資も計画されている。非製造業では引き続き新拠点・新店舗の設置などが計画されている。

(4) 雇用・家計所得環境： 弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。

- ・ 2月の有効求人倍率は前月並みとなった。なお、1月の現金給与総額は前年を下回った。

(5) 個人消費： 消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、3月に前年比+3割程度の大幅な伸びとなった一方、4月入り後は前年を下回っている。
- ・ スーパー売上高は、3月は前年を上回ったが、4月入り後は前年を下回っている。
- ・ 家電販売額は、3月に前年比+6割程度の大幅な伸びとなった一方、4月入り後は前年を下回っている。
- ・ 乗用車販売は、新車登録台数は引き続き前年を上回っているが、受注ベースでは減少している。

《参考》

- ・ 県内ホテル・旅館の稼働状況をみると、観光需要は回復している。

(6) 住宅投資： 減少している。

- ・ 住宅着工戸数は、減少している。もっとも、需要は底堅い状態が続いている。

(7) 公共投資： 減少している。

- ・ 2月の公共工事請負額は、前年を下回った。

### Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加傾向にある。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向けの伸びが続いている。中小企業向け貸出にも動意がみられており、引き続き増加傾向にある（貸出金末残前年比：1月+0.2%→2月+0.2%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、低下傾向を辿っている（月末貸出約定平均金利前月差：1月▲0.003%→2月▲0.012%）。

(2) 預金： 引き続き増加傾向にある。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加傾向にある（実質預金末残前年比：1月+2.8%→2月+2.6%）。

以 上

---

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。